

2100年には？

2100年には、1.1~6.4℃気温が上がり、18~59cm海面が上昇すると予測されています。

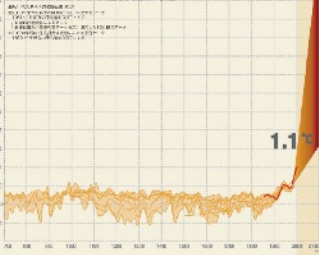
地球温暖化のこれからの見通し^⑦

温暖化は人類の責任！

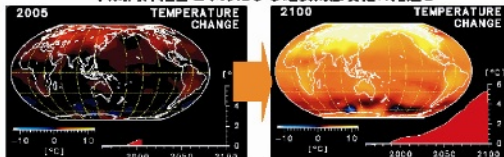
IPCC(気候変動に関する政府間パネル)※の第4次報告書には、「近年得られたより確かな事実によると、最近50年間に観測された温暖化が、人間活動に起因するものであるとほぼ断定しています。左のグラフで見ると、1900年代~今後の気温上昇がこれまでの異なることなのかが良くわかります。

地球の気温はこれからどうなるの？

700年から2100年までの気候変動(観測と予測)



大気海洋結合モデルによる地表気温変化の見通し



【他】国立環境研究所 地球環境研究センター

あなたはどれを選びますか？これからはじまる6つのシナリオ

A1: 高成長型社会

- A1B : 化石燃料と非化石燃料のバランス型シナリオ。
気温上昇は最良の見積もりで2.8℃、予測幅は1.7~4.4℃。
- A1F1: 化石エネルギー重視シナリオ。
気温上昇は最良の見積もりで4.0℃、予測幅は2.4~6.4℃。
- A1T : 非化石エネルギー重視シナリオ。
気温上昇は最良の見積もりで2.4℃、予測幅は1.4~3.8℃

A2: 多元化社会

- 地域ごとの特徴を活かし、多様な発展を想定したシナリオ。
気温上昇は最良の見積もりで3.4℃、予測幅は2.0~5.4℃

B1: 持続的発展型社会

- 地域間格差が縮小し、経済構造が変化、クリーンで省エネルギーな技術が導入されるシナリオ。
気温上昇は最良の見積もりで1.8℃、予測幅は1.1~2.9℃。

B2: 地域共存型社会

- 経済、社会、環境の持続可能性を確保するための地域的対応に重点をおくシナリオ。
気温上昇は最良の見積もりで2.4℃、予測幅は1.4~3.8℃。

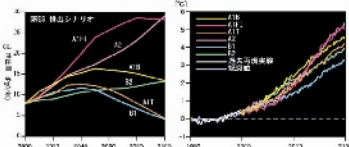


図 二酸化炭素削減シナリオ

図 大気中の気温

IPCCとは・・・

大洪水や干ばつ、暖冬といった世界的な異常気象を契機に各国政府が効果的な政策を講じられるよう、気候変動に関する科学的情報を包括的に提供する必要が高まり、1988年にIPCCが設立された。

<IPCCの3つの作業部会とその作業内容>

- ・第一次作業部会は気候システム及び気候変動の関する科学的知見
- ・第二次作業部会は気候変動に対する社会経済システムや生態系の脆弱性と気候変動の影響及び適応策
- ・第三次作業部会は温室効果ガスの排出抑制及び気候変動の緩和策